



恩賜財団済生会理事長
炭谷 茂

私の小学生時代の記憶
私の出身地である富山県中津川市は、神通川流域に発生した「イタイイタイ病」については、昭和30年代初期の小学生時代から目にしていた。富山市の農村で暮らす中で、地元の人は「イタイイタイ病」を「イタイイタイ」と呼んでおり、その病名を聞いたとき、私は「イタイイタイ」という言葉が、多分、この病名を伝えている。メディアでは「イタイイタイ病」とも呼ばれていたが、その病名が「イタイイタイ」というように聞こえるのは、とても奇妙な感じがした。

環境福祉学講座

小学校では「イタイイタイ病」の公害について教えられることはなかった。むしろ、当時の富山県は、公害問題が深刻化し、全国的に「イタイイタイ病」の被害が拡大していた。昭和31年(1956年)に、私は富山県立中津川小学校で、環境福祉学講座を受講した。この講座は、公害問題に関する教育の重要性を認識するための講座で、当時の富山県立中津川小学校では、公害問題に関する教育がなかった。

公害を教訓にウエルビーイングの町に

「イタイイタイ病」の公害を教訓に、ウエルビーイングの町に。富山県中津川市は、公害問題が深刻化し、全国的に「イタイイタイ病」の被害が拡大していた。昭和31年(1956年)に、私は富山県立中津川小学校で、環境福祉学講座を受講した。この講座は、公害問題に関する教育の重要性を認識するための講座で、当時の富山県立中津川小学校では、公害問題に関する教育がなかった。

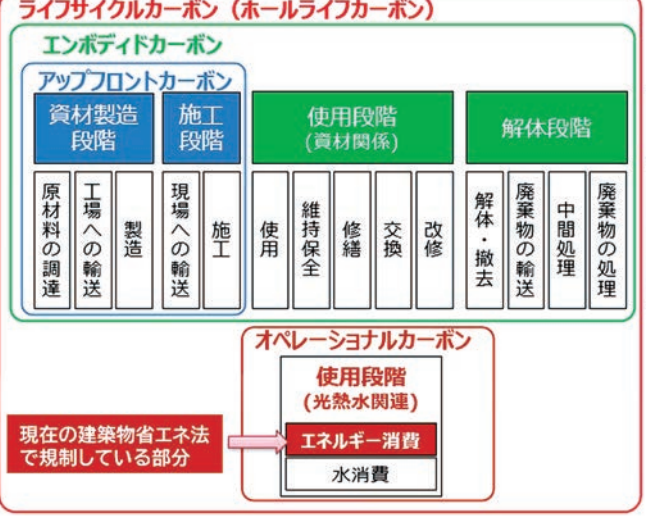
環境福祉からウエルビーイングを見る(8)

「イタイイタイ病」の公害を教訓に、ウエルビーイングの町に。富山県中津川市は、公害問題が深刻化し、全国的に「イタイイタイ病」の被害が拡大していた。昭和31年(1956年)に、私は富山県立中津川小学校で、環境福祉学講座を受講した。この講座は、公害問題に関する教育の重要性を認識するための講座で、当時の富山県立中津川小学校では、公害問題に関する教育がなかった。

建築物のLCCO₂ 建築主に届出を義務付け

社整審答申 評価結果の表示ルール策定も 国交省、28年度目途に制度開始へ

国土交通省(国交省)は、28年度目途に建築物のライフサイクルカーボン(LCCO₂)の届出義務化と評価結果の表示ルール策定を完了し、制度を開始する。建築物のLCCO₂は、建築物のライフサイクル全体を通じて発生するCO₂の排出量を算出した指標で、建築物の環境性能を評価するための指標として活用される。国交省は、建築物のLCCO₂の届出義務化と評価結果の表示ルール策定を完了し、制度を開始する。



建築物のライフサイクルカーボンの構成
建築物のLCCO₂は、建築物のライフサイクル全体を通じて発生するCO₂の排出量を算出した指標で、建築物の環境性能を評価するための指標として活用される。国交省は、建築物のLCCO₂の届出義務化と評価結果の表示ルール策定を完了し、制度を開始する。

持続可能な航空燃料 導入促進へ 官民協議会が基本方針策定

持続可能な航空燃料(SAF)の導入促進を目的とした官民協議会(事務局:国土交通省)は、基本方針を策定した。この基本方針は、SAFの導入促進のための基本となる方針であり、SAFの導入促進のための基本となる方針である。官民協議会では、SAFの導入促進のための基本となる方針を策定し、SAFの導入促進のための基本となる方針である。

環境アセスの建替え要件を公表

国土交通省(国交省)は、環境アセスメントの建替え要件を公表した。この建替え要件は、環境アセスメントの建替え要件を公表した。国土交通省(国交省)は、環境アセスメントの建替え要件を公表した。この建替え要件は、環境アセスメントの建替え要件を公表した。国土交通省(国交省)は、環境アセスメントの建替え要件を公表した。

環境新聞

発行所 環境新聞社
東京本社 03-3359-5371
〒100-0004 FAX 03-3351-1939
東京都新宿区四谷3-1-3
(第1高層ビル)
大阪支社 06-6252-5895
〒541-0056 FAX 06-6252-5896
大阪市中央区久太郎町3-1-15
新刊購読用 03-3359-5371
https://www.kanryo-news.co.jp/
販売部 00150-5-20286
年間購読料 29,700円(税込)
©環境新聞社 2026

Paltem Pipeline Automatic Lining System

甦る管路たち
https://www.paltem.jp/

今週の紙面

- ◇「環境先進都市」実現に3880億円
東京都28年度予算案……2面
- ◇石原環境相 悪しき太陽光にストップを……2面
- ◇L1B対策、A1活用などの発表目立つ
全国都市清掃研究・事例発表会……3面
- ◇G1の活用 当たり前、の社会実現へ
……6面

国交省、「推進戦略2030」策定……4面

- ◇中環審小委、土法改正へ中間まとめ案
追加論点示し引き続き検討……4面
- ◇環境美化教育優良校特集……5面
- ◇「いざ」ではなく「平時」から支える防災
ZEBとウエルビーイング……6面

「軽微変更要件」を参考

に具体化した。発電事業の軽微変更要件は、火災、風力、地熱、発電について、事前の対案事業実施区域から300m以内、離れ「出」の風車の大型化や事業環境の変化などを踏まえて、この条件が定められている。これに対し、アセス上の発電の建替事業について、要件を整理し、これまでに情報集めた事業の実態、環境要素の変化を踏まえて考え方を整理した。アセスで火力の建替と判断するためには、既存の発電の敷地の外周から300m以内、規模は9倍以内とする方向性を示した。大気質や水質、温排水処理が建替前後で大幅に変わるという範囲で検討した。風力の建替は、距離で風車の現地から300m以内、規模は1:1倍以内とした。

MLSS / 界面計	MLSS計	溶存酸素計	DO計	新型 塩素イオン濃度計	濁度計	ピストン式採水器	プロの汚泥厚測定器	マルチレンジ残留塩素計
SS-10Z	SS-10F	DO-11Z	DO-11Z	CL-11Z	TR-5Z	ミズテッポ2号	オディプロ2号/3号	RC-V2
沈殿槽の汚泥界面/MLSS測定	活性汚泥濃度測定	NEW DOセンサー OXNIT DOX-V3	NEW DOセンサー OXNIT DOX-V3	ガラス電極型比較電極 耐久性に優れた長寿命センサー 校正時のISAB添加不要	近赤外線90°散乱光測定法	深い所、狭い所、浅い場所の採水OK 一回で500mL採水! テーパー付直進ノズル (カバー付) 拡大写真 逆流防止ピストンロック機構 採水管はワンタッチカプラ接続 水質検査の必需品	沈殿槽の汚泥界面、汚泥厚、水断層の測定 1. 沈殿槽に投入 2. 引き上げ・測定 3. 汚泥自動排出	0.01mg/L~200g/L迄測定 測定対象 塩素残量、電解生成水、水道水、浴槽水、遊泳プール DPD残留塩素測定試薬 比色法、ニーズに対応、粉末分包試薬、液体試薬をラインアップ 粉末分包試薬 DPD-F-1 遊離残留塩素試薬 全残留塩素試薬 DPD-TL-1 遊離残留塩素試薬 全残留塩素試薬 わずカーンで測定
測定範囲 MLSS: 0~2000mg/L(表示は3000mg/Lまで) 水深: 0.00~5.00m	測定範囲 MLSS: 0~2000mg/L(表示は3000mg/Lまで) 水深: 0.00~5.00m	測定範囲 DO: 0.00~20.00mg/L 水温: 0.0~50.0℃	測定範囲 DO: 0.00~20.00mg/L 水温: 0.0~50.0℃	測定範囲 塩素イオン: 0~2000mg/L 電極出力: 0~1000mV 水温: 0.0~50.0℃	測定範囲 0~200度(ホルマジン濁度標準) 検出器 TRD-1202(ケーブル6m付) 分解能 0.01(〜20度)、0.1(20〜200度)	型式 ミズテッポ 2号 本体 φ50×0.5m 採水パイプ φ13×0.35m 全長 約0.85m 採水量 約500mL	直径 重量 汚泥採取量 2号 φ35×φ48 約1.3kg/3m 500mL 3号 φ26 約0.8kg/3m 300mL	

食環協主催事業

第26 回環境美化教育最優秀校4校決定

環境大臣賞

新潟県長岡市立 てらどまり 寺泊小学校



佐渡島が浮かぶ日本海を臨む同校。恵まれた立地を生かし、海が舞台の浜活動に住民と協働で取り組んできたが、コロナ禍を機に児童主体のSDGsの視点を取り入れた活動を再構築した。

新に「スタト」した活動が、校元の寺田田中海水浴場の清掃だ。海外からの漂着ごみに加え、川を通じて陸から流れこんでごみが多いことに驚いた児童は、海岸の現状を知らせるために、回収ごみを学校バスを使ったクセサリー作り

こうした経験を積む過程で、児童は住民への感謝の気持ちを胸に、海を守るという使命感を養っていく。

特別賞 協会会長賞

沖縄県伊平屋村立 ^{いへや}伊平屋中学校



東シナ海に浮かぶ伊平屋島は、県最北端にある有人島だ。伊平屋フルと称される澄んだ海と、手つかずの自然が残る島を守るために、生徒が自主的に開始したのがあいさつ運動と学校周辺の美化活動

全校生徒と全教職
に立ち、運動や通
民にあいさつをす
経た現在では笑顔
を交わす朝の風物
を果たしている。

また、月初めの1週間は

協力を惜しまない住民と地域の役に立ちたい生徒の熱意が深く重なりながら連綿と受け継がれていく。

児童主役の浜活動が
海を守

海を守る心を養う

清涼飲料やビールなどの飲料業界6団体で構成する食品・飲料環境美化協会（略称：食環協、田中美代子会長）が、地域と連携して美化活動を行う中小学校等を支援しようとして開始した環境美化教育優良校等表彰事業。26回（平成元年）年度は、全国の都道府県より推薦された小・中学校等33校の中から最優秀校4校が決定した。各受賞校の活動を紹介す。

＊ 第26回環境美化教育優良校等表彰式は、1月30日、浅草ビューホテル（東京都台東区）で開催された。



住民への感謝から始まる環境保全活動
豊かな海の恵みを体験し地域交流活発

文部科学大臣賞

宮城県南三陸町立 な た り 名足小学校



漂着ごみが散乱する長須賀海岸の清掃に取り組む児童

豊かな海を臨む学校では長年、校区にある長須賀海岸の清掃活動に取り組む。浜辺にはペットボトルや漁具などのプラスチックごみの漂着が目立ち、児童は県漁協など団体や住民とともに、地域一丸と

なってきた。回収、清房後は、い地域柄、もとごと海や自然環境の保護意識が高い。海清掃を機に民との絆も深まり、その効果は学校の教育活動で発揮される。地場産業をテーマにした「カヌーやホタテの養殖体験、漁船に乗り、養

希望を込める。

学校を見守る住民の熱い思いは揺るぎなく児童に伝わり、ふるさとへの愛着や誇りが着々と築かれていく。

農林水産大臣賞

鹿児島県阿久根市立 わきもと 脇本小学校



砂に混じるマイクロプラスチック
回収実験に取り組む様子

遠浅の白い砂浜が約3キロ
続く臨海海水浴場。県内外か
ら多くの観光客が訪れ、東シ
ナ海に沈む夕陽スポットとし
ても知られている。その景観
を守るために、海岸清掃に取
り組んでいる。砂浜には、ペッ

トボトリなどの漂着ごみが散乱しており、長年にわたるごみ回収に励む。

きみが細かく自慢の砂浜には貴重な動物植物が生息。中でも、アカウミガサやシロチドリが産卵する浜辺としても有名な。

絶滅危惧種のシロチドリは、ヒナの巣立ちを確認できない年が増加。要因は砂の減少や、ヒナにも捕食などさまざまな

名で、児童は地域団体の協力を得て多様な体験学習を実施。

環境問題を自分事として捉え、ウミガメやシロチドリが訪れる豊かな砂浜を取り戻すため、未来への責任を胸に刻む。

海の恵みを五感で体験し

保護意識育む

海岸清掃が貴重な

動植物の保護に直結

エシカル消費が未来をつくる



Copyright: Ethical Consumer Research Association Ltd, 2017

一般社団法人日本エシカル推進協議会は持続可能なエコ文明の構築のために活動する様々な団体、個人のプラットフォームであり、特にサステナブル購入、フェアトレード、FSC、MSC、レインフォレストアライアンス認証、RSPO、動物福祉、オーガニック、ESG投資、エシカルファッションなどなどのエシカルなライフスタイル及び文化全体の底上げを主要な使命としております。



一般社団法人

日本工シカル推進協議会 事務局

〒160-0004 東京都新宿区四谷3-1-3 (株)環境新聞社 事業部内
TEL: 03-3359-7039 FAX: 03-3359-7250
E-mail: general@jeijc.org URL: <http://www.jeijc.org/>





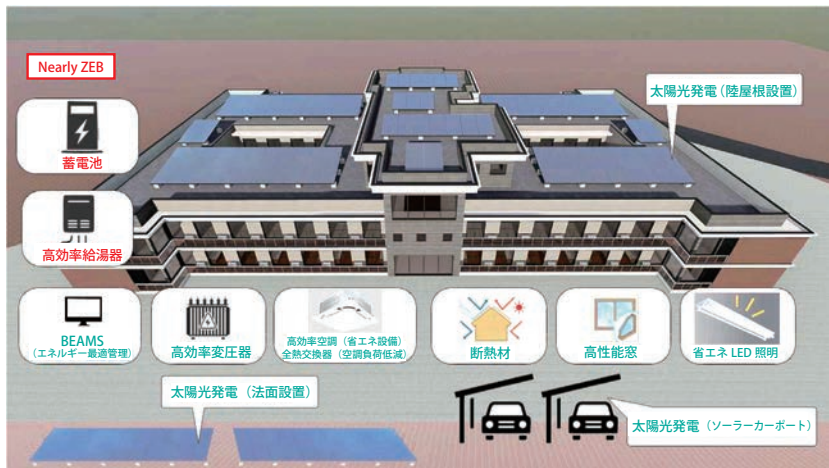
環境広場

かんきょうひろば



ZEBとウェルビーイング——福祉施設とBCP

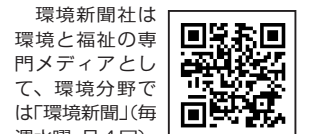
「いざ」ではなく「平時」から支える防災



エナジアが手掛けた社会福祉法人すみれ福祉会



災害時の介護現場では、職員と利用者の安全確認のほか、地域の人や利用者家族への対応など、考えることは想像以上に多い



環境新聞社は環境と福祉の専門メディアとして、環境分野では「環境新聞」(毎週水曜、月4回)、福祉分野では「シルバー新報」(毎週金曜、月4回)などを発行しています。2025年に設立60周年を迎えたのを機に、初めて環境新聞とシルバー新報のコラボ記事を発表しました。環境と福祉に共通するテーマを取り上げ、環境新聞にはシルバー新報の記者が、シルバー新報には環境新聞の記者が、それぞれの視点で分かりやすく解説していきます。



電力は災害時の介護現場において生命線であり、ZEBはBCPを実効性あるものにすることが重要と想定している。介護施設がこうした備えを重なることは、地域全体の防災力向上にもつながる。

環境新聞×シルバー新報 やさしさ、ぐるぐる。 福祉と環境、いい関係。

近年、地震や豪雨などの災害が各地で頻発し、「防災」は誰にとっても身近なテーマとなっている。一方で、災害時に高齢者や障害者など特別な配慮を必要とする人たちが避難し、どのような支援を受けののかについては十分に知られていない。福祉と防災は、実は密接に結びついた分野。福祉の現場、とりわけ介護施設が防災においてどのような役割を担っているのかを、「福祉避難所」「BCP」という視点から解説する。

（シルバー新報編集部・佐藤慎之介）

災害時の避難所と聞いて、多くの人が思い浮かべるのは、学校の体育館や公民館などだろう。しかし、高齢者や障害者、医療的ケアが必要な人にとって、こうした避難所での生活は大きな負担となりかねない。段差やトイレの問題、周囲の騒音、体調管理の難しさなど、災害時には日常生活以上に配慮が求められる。こうした人たちのために設けられているのが、福祉避難所だ。

多くの場合、要配慮者は一度通常の避難所に避難し、そこで必要性が認められ、福祉避難所へ移動する。二次避難の形を取ってきた。しかし、災害発生の中でこの手続きが円滑に進まないと、命の危険は少なくない。

こうした反省を踏まえ、2021年に閣内閣が改定した「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」では、要配慮者が直接福祉避難所へ避難できる仕組みづくりが明文化された。自治体が事前に受け入れ体制を整え、人数を調整・示すことで、災害発生時の混乱を減らすという考えがうかがえる。これにより介護施設が、いざという時に密かに注目を集めている。

例えば、利用者がリハビリなどに通う通所介護や、ヘルパーが在宅介護を行う訪問サービスでは、送迎ルートの安全確保、車内での対応が重要になる。施設サードスペースでは、食料や水、毛布といった備蓄に加え、停電時の設備や優先的に稼働させることが事前に決めおく必要がある。福祉避難所として指定されていなくても、被災状況によっては地域住民や要配慮者が施設に避難して、可能性は否定できない。その事態を想定している。介護施設がこうした備えを重なることは、地域全体の防災力向上にもつながる。

が、建物の設計段階から電源確保を考えた取り組みだ。ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)は脱炭素や省エネの文脈で語られるが、介護施設では、災害時に何をするかを、現実的に整理するための考え方としても導き出される。

ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)は、事業でZEB化をしながらエナジア(福島県郡山市、白石昇社長)は、2024年に福島県内で特別養護老人ホームなどを運営するすみれ福祉会(佐久間早代子理事長)に対し、太陽光発電や蓄電池の設置などのZEB化を行った。重視したのは、停電時でも全設備を稼働させることではなく、エレベーターや共用部照明、通信機器、給水ポンプ、冷蔵庫などを「特定負荷」として事前に絞り込むことだった。蓄電池の容量も、これらを何時間動かしたかという課題から逆算して決定した。太陽光発電で創った電力は、常時には自家消費し、光熱費削減に活用する。非常時の稼働は、常時稼働とは異なる。使いながら備える「フェーズ1」の考え方だ。さらに、将来的には送迎車両などのEVを移動する電源として活用する構想も視野に入れている。

あおいさかなは、名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実、故郷の岸を離れて、汝はも波に幾月(島崎藤村「椰子の実」)

かつて島崎藤村は、波に運ばれた椰子の実を見て、遠く離れた自分の故郷を想った。現代の浜辺に流れ着くのは、情緒ある自然の果実ばかりではない。そこにあるものは、人間の生活に生み出されたプラスチックなどのゴミだ。深海で2025年12月21日に開催した「巡る音楽祭」では、「海洋ゴミを宝物に生まれ変わらせる」というワークショップが実施された。このワークショップは、水産生物園家の藤田穂波さんが講師となり、海に浮かぶゴミを拾って、使ったゴミ(浮き)にペイントを施すというもので、私も参加した。

触れあひながら、私もまた藤村のように、ここから流れてきたのか、元々はどんな人なのか、ここに役立てられたのか、のどつとつと想いを馳せた。

このイベントは、プラスチックゴミは、2023年の国連環境開発目標の資料によると、世界全体で年間1900万トン、うち300万トンが海洋に流出している。藤村は椰子の実に自らを重ねて故郷への帰還を願ったが、プラスチックのフラスチックは、生み出れた故郷に帰ることがない。

しかし、このワークショップでは、色を塗ったフラスチックは、私の部屋に飾られ新しい居場所を得る。生活の中であふれかたむ中であふれかたむフラスチックの体験とともに、遠い海の気配が蘇る。

アートは、直接お腹を満たしたり、生活を便利にしたりする「役に立つもの」ではないかもしれない。しかし、ゴミとして処理されるはずだったものに新たな価値を与え、私たちが止まっていたところから、新たな価値を生み出す「きっかけ」を作ることができる。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

あおいさかなは、名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実、故郷の岸を離れて、汝はも波に幾月(島崎藤村「椰子の実」)

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

真冬というのに選挙になってしまいました。選挙も交通も非常に危うい状況で、民意が正しく反映されるの心配が拭ききれません。有権者は選挙に行きましょう。というわけで、今月は民主主義がテーマです。

＊ ＊ ＊

江戸幕府の政治体制は封建制度だ。征夷大将軍をトップとする幕府があり、その下の大名たちが領有する藩の人民を統治する將軍専制である。そういったこともあり、江戸時代の民衆は権力者に搾取されてきたという主張がたびたび出て来るが、もしそれが本当なら、泰平が260年も続いたわけがない。あつちで、撥が勃発して、出来の悪い大名や代官などあつちの間に脚する。戦国時代から続く旧臣の村々は、戦を乗り越えてきた記憶を持つ強者で、紙めではない。

＊ ＊ ＊

でも、大抵は元を辿れば大坂夏の陣で亡くなった者たちだ。強かっただけではない。自分の国の領民に認められ、彼ら

江戸に学ぶSDGs

その33

江戸文化芸術研究 作家 櫻庭 由紀子



江戸時代の民主主義



歌川国貞「桜子後日談」複製画。重税に苦しむ農民のために将軍への直訴をおこない、処刑された義民・佐倉惣五郎。東京都立中央図書館 TOKYOアーカイブ

が、建物の設計段階から電源確保を考えた取り組みだ。ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)は脱炭素や省エネの文脈で語られるが、介護施設では、災害時に何をするかを、現実的に整理するための考え方としても導き出される。

ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)は、事業でZEB化をしながらエナジア(福島県郡山市、白石昇社長)は、2024年に福島県内で特別養護老人ホームなどを運営するすみれ福祉会(佐久間早代子理事長)に対し、太陽光発電や蓄電池の設置などのZEB化を行った。重視したのは、停電時でも全設備を稼働させることではなく、エレベーターや共用部照明、通信機器、給水ポンプ、冷蔵庫などを「特定負荷」として事前に絞り込むことだった。蓄電池の容量も、これらを何時間動かしたかという課題から逆算して決定した。太陽光発電で創った電力は、常時には自家消費し、光熱費削減に活用する。非常時の稼働は、常時稼働とは異なる。使いながら備える「フェーズ1」の考え方だ。さらに、将来的には送迎車両などのEVを移動する電源として活用する構想も視野に入れている。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

が、建物の設計段階から電源確保を考えた取り組みだ。ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)は脱炭素や省エネの文脈で語られるが、介護施設では、災害時に何をするかを、現実的に整理するための考え方としても導き出される。

ZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)は、事業でZEB化をしながらエナジア(福島県郡山市、白石昇社長)は、2024年に福島県内で特別養護老人ホームなどを運営するすみれ福祉会(佐久間早代子理事長)に対し、太陽光発電や蓄電池の設置などのZEB化を行った。重視したのは、停電時でも全設備を稼働させることではなく、エレベーターや共用部照明、通信機器、給水ポンプ、冷蔵庫などを「特定負荷」として事前に絞り込むことだった。蓄電池の容量も、これらを何時間動かしたかという課題から逆算して決定した。太陽光発電で創った電力は、常時には自家消費し、光熱費削減に活用する。非常時の稼働は、常時稼働とは異なる。使いながら備える「フェーズ1」の考え方だ。さらに、将来的には送迎車両などのEVを移動する電源として活用する構想も視野に入れている。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

アートで海洋ゴミを宝物に生まれ変わらせる

立ち止まって考え、想いを馳せる「きっかけ」に

お腹を満たしたり、生活を便利にしたりする「役に立つもの」ではないかもしれない。しかし、ゴミとして処理されるはずだったものに新たな価値を与え、私たちが止まっていたところから、新たな価値を生み出す「きっかけ」を作ることができる。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

このイベントは、私に海の想いを馳せ、時間をくれたように、私も深海合唱団の音楽活動を通じて、誰かがふと立ち止まったり、考えたり、かけを作ったり、きいて改めて思う体験だった。

ご購入申し込み書 (下記にご記入のうえ、ファックスにてご注文ください)

お申し込みFAX番号: 03-5369-4858

〒	〒	〒
都道府県	市区町村	〒
〒	〒	〒

会社名	〒
団体名	〒
〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒

〒	〒
〒	〒